

# 生活者と企業との共創社会をめざして

## 一般社団法人日本ヒーブ協議会

代表理事 **中村 尚美**

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は格別なるご厚誼を賜り、厚く御礼申し上げます。

当協議会は企業の消費者関連部門で働く女性が生活者と企業の双方を理解し、新しい価値を創造・提案することで、生活者の利益と企業の健全な発展に寄与することを使命として活動しており、今年で創設 45 年目を迎えます。

昨年はコロナ禍も収まらない中、世界的なインフレーションとともに国内では急激な円安に為替が動くという、生活者にとっても企業にとってもなかなか先が見通せない一年でした。

そんな社会情勢の中ではありましたが、当協議会では「We でつくる幸せシナジー、誰もが自分らしさを発揮して混じりあい、生活者視点の価値を生みだす社会へ」というパーパスを掲げ、活動を続けて参りました。

このパーパスには、その人らしい暮らしや、一人ひとりの個性が尊重される社会の実現に貢献できることこそが、「新しい価値」であり、様々な価値観が混じりあい、たまにはぶつかりあい、理解しあうことを通じて価値が生まれてくるという当協議会の思いがあります。

そのことから、不確実性の高い現代にあっては、ますます「対話」が重要になると考えました。組織や企業の中では、異なる考えや価値観を持つ人同士が本音で対話できる組織づくりが重要となりますが、現実是对話を阻む古い組織風土が根強く残っており、当協議

会の会員もそれぞれが所属する組織の中で、これを打破すべく挑戦と実践を日々繰り返していました。この組織での経験から得た学びや知恵をもとに「本音で共創する組織・チームづくりへの挑戦 進化する実践 BOOK」を作成しました。この実践 BOOK を各人の業務を遂行する中で活用できるようにするとともに、HP 上でも公開しどなたでも閲覧できるようにしました。

かつての生活者は企業が作ったモノやサービスを消費する人として、企業とは相對する関係でした。しかし、時代の変遷を経て、現代の生活者は消費する人であるだけでなく、情報を発信する人であり、売る人であり、価値を創造する人へと変化してきています。当協議会では、今後は変化し続けている生活者とともに、企業も同じ方向を見て共に新しい価値を創る関係性へと向かっていく、と未来の社会を描きました。2022 年の 9 月から 11 月には、「生活者『を』から生活者『と』による価値創造の実践へ」をテーマとする公開講演会を 3 回にわたり開催し、海外事例を含めた最新の理論と、顧客や地域の人々と共に新しい商品サービスや価値を生み出している企業の実践例を学びました。

日本ヒーブ協議会は、2023 年も生活者と企業経営の双方の視点を合わせ持つヒーブ視点で社会を捉え、各企業のビジネス活動の中で、生活者との新しい価値創造をめざし、活動を続けて参ります。本年もどうぞよろしくお願いたします。